平成 23 年度
福岡県移住者子弟留学報告書

2011 Exchange Students Program for
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

財団法人福岡県国際交流センター

目次

02 **大友 池部 ルシアネ**（ブラジル福岡県人会）
九州造形短期大学造形芸術学科

05 **田中 真理恵 シンチア**（ブラジル福岡県人会）
九州大学大学院システム生命科学府

08 **篠崎 忠夫 ブルーノ**（ブラジル福岡県人会）
九州大学大学院芸術工学府

11 **信重 真紀 アンジェラ**（ベレン福岡県人会）
九州大学大学院システム情報科学府

ブラジル福岡県人会
大友　池部　ルシアネ

初めに

私はブラジル・サンパウロ州・サントアンドレ市出身の日系３世です。サントアンドレ市は都会で、サンパウロ市から１８キロ離れたところにあり、人口は６６７，８９１人です。冶金工で有名な地域です。私の家族は両親、姉、妹と愛犬一匹です。父は公立高校の数学の教師で、母は「光」という店でマッサージ師をしています。姉は C&A というファッション会社でスタイリストをしており、妹はサンパウロ大学環境工学博士課程の学生です。

２００６年、私は SENAC 大学のグラフィックデザイン学部を卒業した後、日本への留学を目指していたので、日本語の勉強をするために週２回日本学校に通い始めました。留学の目的は、日本の大学で勉強するだけではなく、日本での生活や日本の文化、伝統、習慣などを学び、友達を作りたかったからです。

福岡での生活

２０１１年４月４日の夜、福岡へ到着しました。初めは、日本のあらゆることがブラジルとは違い驚きましたが、２ヶ月もたてば慣れました。例えば、日本の電車や地下鉄は遅れることなく、時間通りに運行します。また、バスに初めて乗ったときは、運転手が車内で丁寧なアナウンスをすることや、乗客が下りるときには、忍耐強く待ち、それぞれの乗客に対して「ありがとうございました」と言うことに驚きました。また、日本は安全で、夜でも出歩くことができます。

福岡では博多弁が使われています。福岡に住み、博多弁を耳にしてもあまり理解できませんが、博多弁は元気で面白い印象があり、私も覚えたいと思ったので、友人にいくつか教えてもらいました。そして、博多弁と同じように福岡の人達は明るくて、親切で優しいので、生活するうえで困ったことはなく、もし将来また日本に住むことがあれば、首都である東京ではなく、また福岡に住みたいと思います。

日本で過ごした夏

日本での夏は、珍しい経験をたくさんすることができました。日本の夏はブラジルよりとても暑いです。７月には、海外福岡県人会子弟招へい事業に参加して、海外福岡県人会から来た子どもたちや引率者のお世話をしました。参加者と一緒に私たち留学生もグローバルアリーナという宿泊施設に泊まって、楽しい時間を過ごしました。この事業では、安川電機ロボット工場を見学したり、太宰府天満宮を訪ねたり、梅が枝餅や和紙のうちわを作る体験をしたり、山笠を見学したりしました。友達もできたし、福岡の文化や伝統を学ぶことができました。参加者も、良い思い出を作ることができたようで、また福岡に戻りたいと言っていました。

また、夏休みには、京都と大阪に行きました。京都のいろいろな観光地を訪ね、京都にあるシルクスクリーンの会社を見学することもできて、勉強になりました。大阪では他県の県費留学生たちに会って、一緒にユニバーサルスタジオと大阪城に行きました。

勉強のこと

私は、ブラジルの大学ではグラフィックデザイン学部を卒業しました。日本に来る前は、ヒウキウという洋服メーカーの会社で、生地の模様のデザイナーとして勤めていました。私は良いデザイナーになるためには、創造力が必要だと思っています。創造力を向上させるためには、いろいろなことを経験することが大切だと思ったので、日本に留学して、日本のイラストレーションやファッションについて勉強をしようと思いました。

福岡では、九州造形短期大学で永崎明子先生の指導のもとに勉強していました。永崎先生は忙しいのにも関わらず、いつも親切でした。大学ではたくさん面白い授業があるなかで、私にとってベストな授業を、先生は一緒に選んでくれました。そして、私はイラストレーション、ファッションイラストレーション、エアブラシ、シルクスクリーン、染色の授業を受けていました。中には永崎

先生のクラスもありました。大学の授業では様々な技術を学ぶことができて、直接仕事に繋がる経験になりました。先生達とデザインについて話したり、大学生たちの作品を見たりして、良い刺激になりました。

また、福岡県海外移住家族会の大瀧さんや吉野さんからは、着物のことを教えてもらいました。何度も着物の展覧会に連れて行ってもらい、着物のことを更に好きになり、将来仕事にも役立つと思っています。

大学での授業の他にも、日本語の勉強をするために週２回公文に通っていましたし、香椎浜小学校でボランティアの方が教えてくれる日本語教室に、週１回通っていました。

この一年間、福岡で勉強したことは一生忘れません。

帰国後

福岡での留学中、福岡県海外移住家族会やブラジル福岡県人会、国際交流センター、友人の皆様には、多くのことを手伝ってもらい、また大変お世話になり、多くの思い出作ることができたことを感謝したいです。この繋がりを今だけではなく、ブラジルに帰ってからも保ち続けて、ブラジル福岡県人会や青年会の活動も続けて、多くの人に福岡のことを伝えて、今後県費留学を希望する人たちの手助けをしたいと思っています。そして、将来また福岡に戻ってこようと思っています。

九州造形短期大学造形芸術学科　教授　永崎　明子

（大友担当教員）

本年度４月から福岡県移住者子弟留学生としてブラジルから大友 池部 ルシアネ氏をお迎えいたしました。４年制大学を卒業され、デザイン企業勤務の経験もある方が、本学のような単科の短期大学を留学先に選んでいただき、お役に立つことがあるのかと不安の方が先に立つ状況でありました。研究課題が日本のイラストレーション技術の研究及び布地への活用ということでありましたので、大学で学ばれた分野の違った角度からの応用編を身につけてもらうことと割り切り、本学で開講されている各種のイラストレーション実習を中心に、興味ある実習科目を実際に体験していただくことで、少しでもご希望に近づくことができれば良いのではと思い、自由に科目を選んでいただきました。

前期は日本語クラスへ通いつつ、スクリーン印刷、ファッションイラストレーション（部分練習）、製本など、後期は染色、ファッションイラストレーション（全身像）、色鉛筆やペンのイラストレーションなどを受講され、授業担当者からは、彼女はやはり絵が抜群にうまく、率先して課題に取り組み他学生のよい刺激になっていると絶賛をいただいています。染色の授業では日本の文様を独自の視点で応用するなど成果が上がっています。

留学生寮のお仲間のバックアップもあるかと思いますが、日本語の習得や気候風土が異なる土地での健康管理を上手に行われ、明確な目的を着実に遂行されています。私は終始日本語で対応したに関わらず、ルシアネさんは電子辞書片手にうまくコミュニケーションしていただき、申し訳なく思っております。ブラジルに帰られたら、この１年の経験がプラスになる活動を展開されることを期待しています。また、楽しみを見つけて日本のイメージをブラジルの方々に伝えてもらえれば幸いです。

ブラジル福岡県人会
田中　真理恵　シンチア

この一年の留学について

私はサンパウロ州ソロカーバ市出身で、２０１１年４月に来日して、県費留学生としての新しい生活を始めました。日本に来ることができて、とても嬉しいです。小さい時から日本語の授業を受けていて、ずっと日本に留学したいと思っていました。日本語と日本文化をより深く学びたいと興味を持ち続け、この１年間に様々な体験をすることができました。

福岡での生活

福岡では「自協学舎」という寮に住んでいて、JR 香椎駅と西鉄香椎駅から近くて便利な所にありました。通っていた九州大学も寮からあまり離れていないので、とても便利でした。部屋は個人部屋、キッチンとランドリーは共同です。最初は、キッチンを共同で使用することについて少し不安でしたが、しばらく経つと、同じ寮に住んでいる人と食事の時間を楽しめることが利点だと考えるようになりました。

平日は毎日、大学の研究室に通っていました。普段は朝食を食べてから自転車で学校へ行き、週末は休んだり部屋の掃除をしたり、洗濯をしていました。時々友達と近所に遊びにも行きました。家族会や留学生をサポートする団体からの、日本文化を体験するためのイベントへご招待を何度も頂き、ホームシックにならずにすぐに日本での生活に慣れました。

日本文化の体験について印象的な活動は、海外福岡県人会子弟招へい事業の活動、花火大会、着物体験と餅つき体験でした。子弟招へい事業では刺激的な１０日間を参加者の子どもたちと過ごし、様々な伝統的な活動に参加できて大変良い思い出になりました。特に、大島小学校での交流と八女伝統工芸館で手すき和紙の団扇を作ったことは印象的でした。子どもたちや引率者と仲良くなることができて、ブラジルに帰ったらまたみんなと会いたいと思っています。

ブラジルでは花火はお正月に打ち上げられます。日本では花火大会は夏に行われ、とても楽しいイベントです。その輝きは、観る全ての人を魅了していました。私の身元保証人の小嶋マルタさんに招待していただいて、大濠公園の花火大会に行きました。また、家族会からの招待で久留米市と香椎浜の花火大会に行く機会が得られた事を心から感謝しています。

１２月に着物の着付け体験と餅つきのイベントがありました。まず着物体験では、初めて着物を着て、友泉亭公園でお茶を飲んでから庭園を散策しました。家族会の皆さんが来てくれて、非常に嬉しかったです。また、クリスマスの日に久留米で餅つき体験をしました。とても寒くて、雪も少し降りました。餅つきは思ったより大変でしたが、大切な経験だったと思います。留学生は皆、お餅を食べることができて本当に喜んでいました。

この１年間で、初めて経験したことがたくさんありました。留学中、一番心配していたことは長い間家族に会えないことでしたが、インターネットを通して頻繁に家族と連絡が取れたので、特に問題はありませんでした。その他に、私は料理が苦手なので食事が心配でしたが、大友さんがいつも助けてくれました。最近は、自分で味噌汁を作れるようになったので、とても嬉しかったです。福岡での生活で自分自身が少し成長したのではないかと思っています。

勉強のこと

私は、九州大学数理生物学研究室の巌佐庸先生のもとで勉強をしていました。数理生物とは数理の手法を用いて、生物学の問題を調べる分野です。前期は巌佐先生の数理生物学を受講し、後期は矢原先生の生態学を受講しました。最初は日本語の専門用語が全くわからなくて、頻繁に辞書で知らない単語を調べていました。授業では様々な数理生物学のモデルと進化生物学の理論を習得し、参考になりました。

講義に加え、毎週木曜日に研究室のセミナーがありました。セミナーでは、私と研究室にいる４年生の学生が自分の研究プロジェクトについての経過を発表しました。皆は優しくて、私にアドバ

イスをしてくれました。私の日本語能力が足りなかったので、英語で発表をしていました。
　私の研究プロジェクトは、丙午の迷信についての数理モデルについてでした。丙午は６０年に一度の干支の組み合わせです。江戸時代の頃から、その年に生まれた女性は激しい性質を持っていて、「夫を食い殺す」と言われています。日本人の出生率も丙午迷信に影響されているようです。丙午迷信が広がる理由を調べて、次の丙午年の出生率がどうなるか推定したいと思っています。
　将来私は研究者になりたいので、日本で数理生物学についての学会に参加できたことは本当に大切な経験だったと思います。８月に東京で行われた日本数理生物学会年会と１１月に京都で行われた進化理論のワークショップに参加しました。日本と海外からの研究者と交流し、講義を受けながら様々なことを学びました。
　日本語でのコミュニケーションを上達させるために、大学の日本語の授業を受けました。前期は文法と作文についてのコースを受け、後期は漢字のコースを受けました。一生懸命勉強をしているので、日本語が上手だと褒められるたびに、表現できないほど嬉しくなりました。

最後に

　福岡県国際交流センターと福岡海外移住家族会の皆様のご支援、誠にありがとうございました。この１年間の留学が良い思い出になったのは皆様のおかげです。
　来日が実現したことについては、ブラジル福岡県人会の皆様に感謝しています。帰国後はブラジル福岡県人会の青年部に入り、できる限り県人会の活動を通して日本と福岡の文化をブラジル人に伝えたいと思います。
　九州大学の巖佐先生、研究室及び福岡で出会った新しい友達へ、この一年間を一緒に過ごしてくださり、どうもありがとうございました。皆様にまた会う機会を楽しみに待っています。
　最後に一緒に来た県費留学生の友情に感謝したいです。今後もよろしくお願いします。

九州大学大学院システム生命科学府　教授　巌佐　庸

（田中担当教員）

田中さんは、人の社会の数理モデリングを学びたいと考えて、私の主催する数理生物学研究室に研究生として所属している。日本語クラスを含むさまざまな講義をとるとともに、学部４年生に対する卒業研究指導に参加され、あるテーマについて数理モデリングと解析、コンピュータシミュレーションをすすめ、毎週、その研究進展を皆の前で発表するという指導を受けてきた。

田中さんが取り上げられたのは、日本における「丙午（ひのえうま）」年に出産数が低下する現象である。丙午の年に生まれた女性が結婚において避けられる不利があることから、親がその年での出産を避けるために生じる。田中さんは、丙午信仰を持っている人と持っていない人を性別や行動によって分け、それぞれのクラスの数のダイナミックスを追求して、丙午信仰を持つ人が集団の中で最終的に消滅するのか、広がってある割合を維持するのかを計算した。

このモデル化においては、（１）父親や母親が丙午信仰をもっていたときに、子供に伝わるやり方（母系継承、父系継承、メンデル型など）、（２）夫および妻が丙午信仰をもつときに、出産を避けるかどうか（夫が決める、妻が決める、両方の中間など）、（３）両親が出産を避けようとしたときに、失敗して実際には出産してしまう可能性、などのパラメータによりさまざまなダイナミックスが表れてくる。これを数学モデルとして立て、平衡状態や安定性の解析を行うともに大域的挙動の計算機シミュレーションによる解析等を組み合わせ、丙午信仰が広がって１９６６年に日本で見られた現象が生じる状況を特定した。

この研究は、配偶者選択を規定する文化因子のダイナミックスによって、不適応行動がヒト社会に広がる可能性の理論的研究で、オリジナリテイーがある。最終的には、論文としてまとめて専門誌に投稿したい。

田中さんはこの研究の他にも、研究室の大学院生や学部生たちとの交流や、その他の行事への参加日本の他の都市を訪問する機会をもつなど、さまざまな経験をもった。

ブラジル福岡県人会
篠崎　忠夫　ブルーノ

私のこと

私は日系３世のブラジル人です。パラナ州マンダグワリ市の出身です。マンダグワリ市の人口は約３万６千人です。母はポルトガル人とインディオの子孫で、父は日系２世で、父方の両親は福岡県で生まれました。私の子どものころからの夢は、祖父母の故郷である福岡について知ることでした。

私が生まれる前に父方の祖父が亡くなりました。祖母が住んでいる町も私の家から遠いため、福岡について祖母から話を聞くこともほとんどありませんでした。残念ながら２年前に祖母も亡くなりましたが、祖父母が生きていたら、私が彼らの故郷である福岡に留学できたことを誇りに思ってくれると思います。

私は、マリンガの大学でウェブデザイン学部を卒業しました。大学ではホームページのデザインについて勉強しました。そして卒業から２年後に、福岡県人会の県費留学の試験に合格しました。とても嬉しくて、日本に行くことをすごく楽しみにしていました。初めて福岡に来たのは、桜の季節で、とてもきれいだったことを覚えています。また、日本の安全や清潔な街並み、規律正しさや自然の多さなど、私は多くのことに驚きました。

九州大学での勉強

私は、九州大学の大橋キャンパスで、指導教員である藤紀里子先生のもと、「ホームページの視覚的有効性」というテーマで研究をしました。藤先生はとても親切な方です。私の学習計画は、色彩と図形を正しく活用して、ホームページのナビゲーションに効果的なレイアウトを製作することや、ユーザーにとって楽しく魅力的なホームページを提供する方法を分析して、グラフィックデザインを使った明確で組織立った情報を、ユーザーに速やかに伝達できる方法を分析することでした。私がホームページを作るときの１番の心配事は、ユーザーがインターネット上を上手く操作できるかどうかです。それゆえに、企業などのウェブサイトは、明確で客観的に構造化する必要があると思っています。

大学の研究の一環として、藤先生と一緒にデフィデ株式会社(DEFIDE - Design for Communications)を見学することができました。デフィデ（株）は、システム開発・ネットワーク設計・インフラ構築等基本のエンジニアリングに加えて、さらに、付加価値を追求するブランドイメージ向上・デザイン・コンテキスト・マーケティングなどに注力して活動しています。とても興味深い会社でした。

また、私は来日前に３年間ブラジルの公文に通い、日本語の勉強をしていましたが、この１年間の留学中に、日本で暮らせたことが何よりも素晴らしい日本語学習になりました。九州大学の箱崎キャンパスで日本語の授業も受けることができて、授業の合間には、先生から日本の習慣について多くのことを教えてもらいました。毎日新しいことを学ぶことは、とても幸せでした。日本語に慣れていくにつれて、日本での生活がどんどん楽になっていきました。日本語クラスでは、たくさんの外国人の友だちもできたので、他国の文化について知ることができて、本当に面白かったです。大学の日本語クラスのほかにも、日本人ボランティアの方々が開催している、“日本語おしゃべりサロン”に通い、勉強をしていました。そこでは、日本語の学習のほかに日本人の友達を作ることができたので、楽しかったです。

日本の夏休み

７月に海外福岡県人会子弟招へい事業に参加しました。この事業では様々なイベントがあり、その中でも、大島の山笠祭りに参加したことと、那珂小学校との交流がとても印象的でした。参加した子どもたちは、日本文化について多くのことを学ぶことができて、日本での経験を一生忘れない

と思います。
　また、大学の夏休みや冬休みには、旅行にでかけました。私が日本で好きな場所は京都です。京都の中でも金閣寺と清水寺がとても好きです。京都には他にも多くのお寺と神社があり、お土産屋が並んでいて本当に楽しかったです。京都は非常に古い伝統がそのまま残るところでした。
　日本のいろいろなところを旅行しましたが、その中でも福岡市は最高です。福岡市は大きな都市で近代的であり、素晴らしく、大濠公園やシーサイド百道が大好きです。食べ物は、博多ラーメンが大好きです。日本に来るまで私はラーメンを食べたことがありませんでしたが、「博多ラーメンは“うまかばい！！”」

最後に
　この１年間、福岡県海外移住家族会の皆さんが、私たち留学生のために様々なイベントを催してくれました。私は心から感謝しています。多くのイベントの中でも、２０１１年１２月１０日の私の誕生日には、着物体験が開催されて、初めて日本の袴を着ました。とても面白い経験で、このイベントは私にとって、皆様からの最高の誕生日プレゼントでした。私が着物を着た写真を母に送ったら、母は感動して涙がでたそうです。
　１年間はあっという間に過ぎました。私はブラジルに帰った後、ブラジル福岡県人会の活動を手伝い、日本文化と日本語を勉強し続けたいです。そして、いつの日か日本語能力試験Ｎ１級を取得したいです。また、日本で学んだインターネットや写真、ビデオなどの技法の知識をいかして、自分のビジネスを始めたいと思っています。
　福岡県国際交流センターと家族会の皆様、本当にありがとうございました。心から感謝しています。

九州大学大学院芸術工学研究院　助教　藤　紀里子

（篠崎担当教員）

篠崎忠夫ブルーノ氏を、２０１１年４月より１年間研究生として迎え入れ、指導してきました。箱崎地区での日本語の授業が中心となっていましたが、原則として週一回のゼミに出席し、大橋キャンパスで専門の授業もいくつか受講しました。非常に真面目で、ゼミで与える課題にも熱心に取り組んでいました。

グラフィックデザイン演習、グラフィックコミュニケーション論などの授業において、グループでポスター制作を行い、なんとか日本語でコミュニケーションを取りながら、頑張って取り組んでいるようでした。ゼミでは、専門であるウェブデザインという分野において、「ウェブデザインのガイドライン」というものの必要性に着目し、研究していました。これまでの職業経験と新たな調査や文献に基づき、ウェブデザインの行程を見つめ直し、ユーザビリティという側面において必要とされるチェック項目を選定し、それをもとに、検証として、１つのサイトのデザイン改善案の提案を試みました。

研究としては、まだ緻密な調査等必要となってきますが、研究に取り組む姿勢や視点、レポートのまとめ方を学び、様々な文献や資料を調査する中で、新たな興味ある発見もあったように思います。

勉学以外では、研究室の学生と飲み会も行い、交流を深めました。また、本人より日本の会社を見学したいとの希望があり、ゼミの一環として、福岡のウェブデザイン会社の訪問を実施しました。企業（実践）におけるデザイン行程について、非常に興味深く説明を聞いていました。同行した日本人学生にとっても、よい経験となったようでした。

このようなブルーノ氏の積極的な姿勢は、研究室の日本人学生にもよい刺激となり、お互いに有意義な一年を過ごせたのではないかと思います。

ベレン福岡県人会
信重　真紀　アンジェラ

はじめに

福岡県国際交流センターと福岡県海外移住家族会の皆様には、私たち留学生を暖かく受け入れていただき、心から感謝をしています。平成２３年度の１年間の留学を通して、福岡で様々な体験をすることができ、忘れられない思い出を作ることができました。

私が県費留学生を希望したきっかけは、２００９年に海外福岡県人会子弟招へい事業に引率者として参加したことです。この事業に参加したことで、福岡を詳しく知ることができました。その時私は、福岡の大学で専門分野の勉強をしたり、もっと日本文化や両親の故郷である福岡について学んだりしたかったので、また福岡に戻ってくるという目標を作りました。

私の父は福岡県飯塚出身で母は佐賀県出身です。母は料理が得意で、私は子どもの頃から日本料理を食べて育ちました。福岡に来てから「長崎ちゃんぽん」を食べる機会があり、母が作る「ちゃんぽん」を思い出しました。

福岡での生活

福岡での一年間の留学生活は人生で素晴らしい機会となりました。新しい環境の中で様々な体験ができました。その中でも印象に残ったことは、着物体験やいろいろな楽しいイベントに参加できたことです。着物体験は、福岡市城南区にある友泉亭公園で行われました。友泉亭公園は、江戸時代のお殿様の別荘だった建物で、庭園が広くてきれいな所でした。自分で選んだ着物を着て茶道を体験できたことは生まれて初めてのことでした。着物を着るだけで心と気持ちが変わった気がしました。子どもの頃は、母が日本で買ってきた浴衣を私や妹に着せて、お祭りによく行っていました。このような貴重な体験は、ずっと私の記憶に残るに違いありません。

日本は、春夏秋冬の四季がはっきりしています。私の故郷はブラジルの北にあり、赤道が近くに通っているので一年中暖かくて、最高気温は３１度、最低気温は２１度ぐらいです。ブラジルとは違い、日本では「春、夏、秋、冬」の４つの季節が楽しめて、その中でも一番好きな冬を体験することができました。私が冬から真っ先に想像することは、寒さより雪です。福岡では、雪は少ないけれど降るということを聞いていたので、来日前から楽しみにしていました。しかし、家族会からの招待で１２月に餅つきが行われた日には、たくさんの雪が降っているのを見られたのでびっくりしました。その時は、真っ白な雪を見て、嬉しくて寒さを忘れるほどでした。家族会と空手グループの皆さんと一緒に、お正月に食べるお餅を自分たちでついて、楽しく食べることができました。

７月には海外福岡県人会子第招へい事業が開催されました。私はこのプログラムに参加するのは２回目で、非常に良い経験でした。１回目と２回目では、プログラムの内容が少し変わっていて、また新しい経験がたくさんできました。参加した子どもたちは毎日元気で、楽しく日本での生活や日本文化を学び、新しい友達たちと触れ合い、「日本についてもっと知りたい」という気持ちで日々過ごしていたと思います。このプログラムは、子どもたちから私たち大人まで楽しむことができ、様々な体験を通して日本での忘れられない多くの思い出ができました。

また、私たち留学生は毎月一回、福岡県留学生サポートセンターで行われている日本文化塾に参加していました。素晴らしい方々の経験や日本文化についての話を聞くことができて、毎月参加することでとても勉強になりました。

大学のこと

九州大学では、九州大学大学院システム情報科学府の村上和彰先生とヴィクトル・グラール先生のもとで、アンドロイドのパフォーマンスに関する研究をしました。アンドロイドとは、iPad のようなタブレット PC やスマートフォン向けのプラットフォームの事です。プラットフォームとは、例えば、iPhone 用にゲームを開発した場合、iPhone のユーザーしか使うことができません。しかし、アンドロイド用のゲームを開発すれば、どの携帯電話会社のユーザーでも使うことができるよ

うになります。この仕組みのことをプラットフォームと言います。
　タブレット PC とスマートフォンは､パーソナルコンピュータと同じく様々な機能を持つ装置で、ひとつ違うところは、スマートフォンは携帯電話でも使われているという点です。この研究が進むことで、タブレット PC やスマートフォンの性能向上につながります。
　最初のアンドロイドバージョンは、２００８年に開発された後、２０１１年にバージョンアップされました。現在は iPhone やその他のオペレーティングシステム(OS)の約４０％は、アンドロイドをもとに作られています。
　アンドロイドは、最近使われ始めたため、参考資料が少なくてインターネットを利用して研究をしていたので、研究を進めるのに時間が掛かりました。
　また、九州大学箱崎キャンパスでは、日本語のクラスも受けることができ、文法や漢字の読み書きを勉強しました。そのため、漢字を勉強するのが好きになったので、ブラジルに帰国してからも漢字の勉強を続けるつもりです。そして、日本語能力試験Ｎ１級を取得して、ブラジルにある日本企業で働きたいと思っています。

最後に

　この１年間を振り返ると、皆様からたくさんのイベントに招待していただき、喜びでいっぱいです。帰国後は、ベレン福岡県人会の力になり、様々な県人会活動にできる限り参加したいと思っています。留学生としての経験と県人会メンバーの立場として、これからもブラジルと日本の架け橋となっていきたいと思っています。

九州大学大学院システム情報科学府　准教授　ヴィクトル　グラール

（信重担当教員）

信重　真紀　アンジェラさんは、２０１１年４月にブラジルからの福岡県移住者子弟留学生として九州大学に留学してきました。彼女は情報系の学科を卒業し、JAVA プログラミング言語のソフトウエア開発に関心を持っていたので、村上研究室に参加して、私が指導教員を務めました。本研究室では彼女が仮想マシンにおけるアプリケーションの性能評価に関する勉強に従事しました。本研究は、初来のスマートフォンやタブレット型コンピュータの性能向上に貢献できる技術の基礎になります。私もブラジル出身ですのでポルトガル語での指導が有利だったと思います。しかし、研究上で必要な英語の理解不足が、研究の進歩に影響があったと思いますが、彼女は粘り強く頑張っていたと思います。

彼女は、以前日本での生活を経験していて日本語もよく出来ます。研究室の学生やスタッフとのコミュニケーションも問題は無かったようです。それにもかかわらず、さらに日本語を勉強したいと言い、九州大学の箱崎キャンパスで開催されている日本語研修コースを初めから受講していたため、日本語能力の向上も見受けられました。また、留学生関連や福岡県関連の国際交流の様々な行事に参加したりして、福岡県で新たな経験と楽しい生活ができたと思います。

この１年間の留学経験を活かして、ブラジルに帰っても公私にわたって元気で活躍することを期待しています。特に、日本や福岡とブラジルの関係をさらに深めるための役割を担ってほしいと思います。今後の活躍を祈っています。